初月農園だより

大豆（枝豆）

島本　聡

昨年は「鬼は外、鬼は外」と号泣しながら、鬼に向かって豆をぶつけていた孫も、今年は「鬼はお父さんが変装しているの」とそっと耳打ち、1年たつのが速い。

ところでこの鬼にぶっつける大豆だが、収穫するとなると、無農薬栽培では結構むつかしい。美味しい手前味噌を届けてくれる友人に、大豆はどうしているのか聞いてみると、「大豆は北海道からとりよせている。高知では6月に梅雨があり、取り入れの9月にも長雨が続くことがあるので大豆の栽培には適さない」とのこと。私は、大豆にならないうちの未熟な豆（枝豆）が大好きで、毎年育てているが、美味しい枝豆を収穫するのは、結構むつかしのだ。

5月末から6月になると、アブラムシ、カメムシ，芯食虫などが、大量に発生してくる、この虫たちの餌食にならないようにするには、虫に美味しいことを発見されないうちに、収穫することである。サッポロミドリや、白獅子、雪みどり、といった極早生、早生品種でも72日～80日の生育が必要で、梅雨の始まる6月10日頃までに、収穫を終えたいのなら、3月半ばごろには発芽させ育苗しなければならない、枝豆は寒さに弱く、遅霜の心配がなくなる4月のはじめが畑への定植となる。（霜にあたると全滅する）

早期育苗のための1番の苦労は、発芽・育苗温度の確保である、発芽温度・生育温度は20度～30度であり この温度の確保に苦労することになる。

最初は、有機物の発酵熱を利用しようと、近くの山から落ち葉を広いあつめ、米ぬかと混ぜ合わせての発酵を試みたが、落ち葉の量が少なかったのか、仕込む時期が遅れていたのか、温度が上がらなかった。次の年、落ち葉を集めるのをやめ、米ぬかと土とのみで発酵を促したのだが、土の中の腐敗菌が先に繁殖してしまい、臭くて、臭くて育苗どころではない。酒粕や、麹のような甘酸っぱい匂いの発酵をさすには、それなりの発酵菌の用意が必要でした。細菌の生存競争では、早く発生をはじめたものが、その世界を制するようである。今年は発酵による温度確保はあきらめ、温熱カーペットを利用して発芽熱を確保している。学校の始まる始業式のころ、地温確保と除草のためのポリ黒マルチをかけ定植。5月の終わりから6月のはじめにかけて、さやの中の豆が耳たぶほどの硬さの時、収穫する。収穫は決して固くなるまで待ってはならない。。枝豆や、スイートーコーン、竹の子などは、時間とともに野菜そのものもつ、甘さや、旨みが減ってゆくのだ。3粒入っているさやを塩でもみ、3分から4分ほど湯がくと、鮮やかな緑色、まだ熱いうちに食することができるのは、自家栽培している者のみの特権だ。

趣味悠々

古物に魅せられて

池上　圓

今日も土佐山田の日曜市に行って来ました。ぶらっと眺めて楽しいのは5、6店ある骨董屋さん（古物や）です。古着や着物、電化製品、自転車等のリサイクル品、ガラス瓶や焼き物、絵、古道具などを売っています。古物の趣味にはまってしまったのは3年前です。息子の美容室[…+hair　虹イロノ魚]　を建てることになり、アンティーク風にするのに古物の店を回りました。天井の梁、硬い古床、足場材の棚板、古い電気の傘、大きな古時計、ミシン足の机などを集めました。天井の梁（飾り）に使った丸太は香川まで買いに行きました。小豆島の醤油やさんの梁に使われていたものでした。診療所の薬品棚、白濁ガラスのコップ、皮の四角い鞄、鳥かご、錆びた脚立なども揃えました。古い物は今の使い捨ての物と違って丁寧に作られています。例えば、引き出しの取手、魚や炭を入れる籠、椅子のねこ脚、ガラスの模様と色等、見れば見るほど魅せられます。古物商の方に勧められ、業者市に行くようになりました。（免許が必要なので、夫が取りました）集めすぎた物やリメークした物を売ることも勧められ、「○○マルシェ」に出店するようになりました。今年の1月は倉敷の懐かしマーケットへ。朝4時に家を出て、7時前に会場に着き、荷物を下ろし、テントを立て、机や棚を広げて、駄菓子屋のガラスケース、木の小箱、コーヒーカップ、氷ガラス、ランプ、動くおもちゃなどの古物を並べました。「これ、いいねえ」「懐かしいろう」などとお客さんとのやり取りがあり、買ってもらいます。お客さんに頼まれると次までに探したり、「家にある物、見に来て」と言われるとお家に足を運んだりもしています。結構大変ですが、業者やお客さんとの新しい出会いや会話が退職後の生活の楽しみの一つになっています。

4月9日（日）に息子の美容室の3周年記念イベントで店内を喫茶店にし、駐車場に古物や、手作り品のお店、食べ物や、花やを集めて小さなマルシェをします。土佐山田ですが、のぞきにきませんか？！　[…+antique　虹イロノ魚]　でした。

四コマ漫画「そうにかわらん」が本になりました

高教組委員長　竹島久美

県教委がこの時期にスポーツ自己推薦ともいえるような異例の教員採用特別選考を行うなど、「なんだこれは」と思うようなことも数々あるのですが、今回は、教育通信高校版に連載中の四コマ漫画「そうにかわらん」が連載100回を記念して本になりましたので、紹介します。

作者「おっちー」こと越智篤史さんは高校の美術の先生で、県展無鑑査の日本画家です。また、高教組本部執行委員なども務められるなど、組合の方でも活躍しています。

「んん～、あるある」と思いながらクスリとしたり、「なるほどね」と物事のとらえ方に感心させられたりと、毎回楽しませてもらっています。また、今回まとまったかたちで読むと、イージス艦「オカーン」来高、学区制撤廃……と、この八年間の情勢の貴重な記録ともなっています。

越智さんの自費出版で随所に作者のこだわりのつまった本となっており、村岡マサヒロさんや、もと高教組書記長吉岡太史さんの寄稿もあります。高教組書記局でも1000円でお分けしています。ぜひお読みください。

ニュース投稿のお願い

2カ月に一回発行している高退協ニュースです。各市町村や地域での取り組みや話題を募集しています。せひ、お知らせください。